

# LITTLE BIG

第46号 2010.10.20

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

kodomo@library.fks.ed.jp

http://www.library.fks.ed.jp

## 【Pieces - かけらたち - 】本の中の言葉

「ひとつ聞くけど、おまえ、もしかしてすごく身分の高い家の子なのか？」

「そんな子がどうして陶土掘りなんかするんだよ」

希龍は蛙声がまだ名前にこだわっているのを知っていた。

「おれには本当のことを教えてくれ。だれにもいわないから。どう見たって、おまえは貧乏人の子どもじゃねえもの」

『龍の腹』（中川なをみ/作 くもん出版 2009年 47p）

政治を他人にたいする個人的な感情と結びつけるなんて、マイクには思いもよらないことだった。だが寄宿学校の生徒がみんなマイクのように考えるとはかぎらないことも知っていた。たしかに、この数か月、パウルはなんどかいやみを耳にしなければならなかった。父親がドイツの軍艦の艦長だからといって。

『ノーチラス号の冒険1 忘れられた島』（ヴォルフガング・ホールバイン/著 2006年 30p）

鉄砲を使うのは、生まれながらの武士でなくてもよい。指南に添えば、格別の力持ちでなくても丈夫な男子であればよい。

「ドーンという音と痺れるような響きに耐えられなきゃだめさ」

と、かかさんは言うが、百姓も領主の命令ひとつで雑兵にかり出されるのだから、鉄砲隊を志願するのは、賢い選択だと思われていたようである。

『火縄銃と見た夢』（松原喜久子/作 ゆいぽおと 2008年 30p）

「<sup>せやくいん</sup>施薬院に来れば、<sup>えやみ</sup>疫病はかならずよくなるの」

疫病で苦しんだ母。あのときは施薬院のことも知らずにいたけれど、もしかして、ここにつれてきていれば、母は助かったのだろうか。

『氷石』（久保田香里/作 くもん出版 2008年 78p）

## 【図書館を使い倒す！】

「LITTLE BIG」では毎回さまざまな本を紹介していますが、読みたいと思った本が近くの図書館や本屋さんに置いていなかった…なんて経験はありませんか？

そんな時に便利なのが「相互貸借(そうごたいしゃく)」です。近くの図書館や公民館図書室に申し込みをすれば、県立図書館の本を取り寄せることができます。

申し込みのしかたや利用方法など、詳しくは地元の図書館の人に聞いてみてください。

～相互貸借の流れ～

借りたい本を決める



近くの図書館で申し込みをする



県立図書館から近くの図書館に、本が届く



本は、借りて家で読むことができます！

返すときは、借りた図書館と同じ図書館に返します。

# ナメから本を読む

このコーナーでは、テーマに合わせて本のちょっと変わった読み方をご紹介します。

## テーマその⑥

れきメン れきじょ れきほん  
歴男★歴女★歴本

最近「歴女」と言われる、歴史好きの若い女性が増えているようです。でも「歴史の本」というと、歴史の勉強の本か、侍(さむらい)なんかが出てくる時代小説を思い浮かべがちです。「そんなの難しいし、渋(しぶ)くてヤダ！」と思うかもしれませんが、実はもっと気軽に楽しめる「歴史の本」ってあるんです。今回はそんな「歴史の本」をご紹介します。これであなたも歴男・歴女！？

書名	著者名	出版社	出版年	内容	時代・場所・その時代のできごと
『タイムトラベラー 1～3』	リンダ・バックリ ー・アーチャー／ 著	ソフトバン ククリエイ ティブ	2007～	現代に生きる少年と少女が、事故で18世紀のヨーロッパに飛ばされてしまいます。さらにたびかさなるタイムトラベルで、少女の体には異変(いへん)が…！？	●18世紀ヨーロッパ ●1789年からフランス革命が起きる
『龍の腹』	中川なをみ／作	くもん出版	2009	父の夢のため、父と共に戦乱(せんらん)激しい中国に渡った希龍(きりゅう)。焼き物の世界に身を投(とう)じ、長い旅の末彼がたどり着いた場所とは？	●13世紀後半の中国 ●フビライ・ハンが宋を滅ぼす。
『氷石』	久保田香里／作	くもん出版	2008	疫病(えやみ)におかされていく平城京。母を失い、希望を持てずにいた少年・千広の物語。	●8世紀の日本 ●752年、奈良の大仏完成
『白狐魔記 1～5』	斉藤洋／作	偕成社	1996～	仙人の弟子として修行し、不老不死(ふろうふし)や不思議な力を持つようになった狐・白狐魔丸(しらこままる)。源義経や楠正成など歴史上の人物と出会いながら、多くの戦乱や人が殺し合う姿を見つめ、白狐魔丸が思うことは…？	●12世紀以降の日本(白狐魔丸は不老不死のため、生き続ける。最新刊は江戸時代が舞台) ●元寇や南北朝の動乱、天草四郎の乱など
『火縄銃と見た夢』	松原喜久子／作	ゆいぽおと	2008	父が百姓をやめ鉄砲隊に入ったことで、家族の暮らしは変わっていきます。戦争とは？幸せとは？	●14～15世紀の日本 ●戦国時代がはじまる

(編集 こどものへや司書・小林)